

環境ウォーター・プロジェクト

# 『宗像の世界遺産の海を守る！ 持続可能なまちづくり』



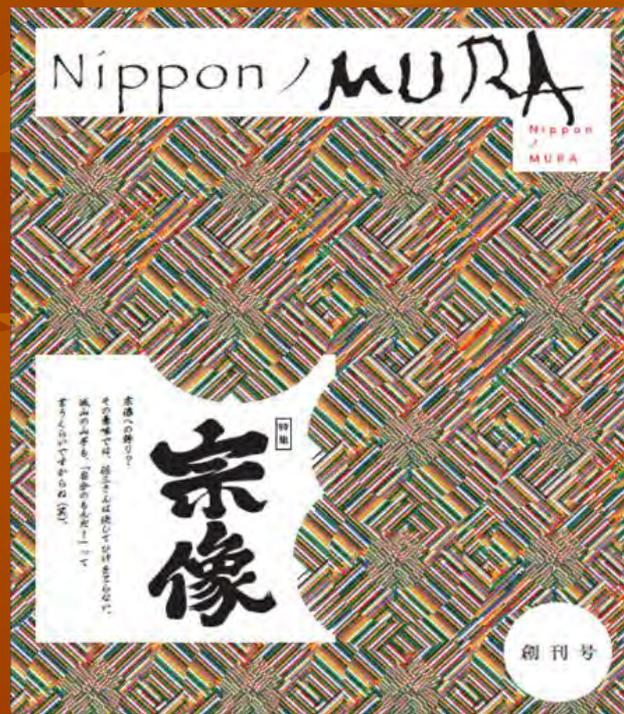
宗像国際環境会議  
事務局長 養父 信夫

## 養父信夫 プロフィール 一社)九州のムラ 代表理事

1962年生まれ。福岡県宗像郡大島村、玄海町で幼少を過ごす。1986年、九州大学法学部法律学科卒。株式会社リクルートを経て、1998年より、雑誌「九州のムラ」の制作に携わる。現在、同誌編集長として、地域に生きる人々の暮らしを中心に取材を重ね、「九州のムラ」を通じ、ムラとマチを繋げる。また講演や地域づくりのアドバイザーなど、グリーン・ツーリズムやスローフード運動の啓発活動も積極的に行っている。

### 【主な役職・実績】

- ◆「NipponノMURA」編集長
- ◆内閣官房 地域活性化伝道師
- ◆グリーンツーリズム大賞2007特別賞受賞
- ◆熊本県小国町「九州ツーリズム大学」非常勤講師、
- ◆大分県安心院町「安心院グリーンツーリズム実践大学」副学長
- ◆九州のムラ市場（マリノアシティ内） 企画・立案者
- ◆トヨタ自動車「Gazoo MURA」プロジェクト企画・立案者
- ◆ニッポン ムラの活力向上プロジェクト副実行委員長
- ◆九州地域六次産業化推進会議専門委員
- ◆六次産業化 ボランティアプランナー
- ◆福岡県6次産業化推進企画委員会 座長
- ◆福岡県まちとむら交流推進協議会（平成26年度）委員
- ◆九州産業大学芸術学部講師「ムラをデザインする」
- ◆福岡海洋動物ECO専門学校グリーンライフ課講師
- ◆宗像環境国際環境会議 事務局長
- ◆一般社団法人ムラたび九州 発起人理事



令和今年度日本フリーペーパー大賞  
内閣府地方創生部門 入賞

### 【地域力創造アドバイザー実績】

- 平成20年度～22年度 鹿児島県霧島市にて移住・定住アドバイザー
- 平成23年度～23年度 鹿児島県瀬戸内町加計呂麻島にて地域力創造のための起業者定住促進モデル事業アドバイザー
- 平成24年度～25年度 長崎県対馬市にて地域力創造のための起業者定住促進モデル事業アドバイザー
- 平成25年度～26年度 山口県山口市にて地域力創造のための起業者定住促進モデル事業アドバイザー
- 平成26年度～28年度 鹿児島県薩摩川内市にて地域力創造のための起業者定住促進モデル事業アドバイザー
- 令和 元年度～令和2年度 和歌山県由良町 観光地域づくり 地域力創造アドバイザー

神宿る島 宗像 沖ノ島と関連遺産群

平成28年7月 世界遺産登録

宗像大社 沖津宮 中津宮、辺津宮  
新原・奴山古墳群

# 1. 自己紹介



# 1. 自己紹介



## 1. 自己紹介



## 1. 自己紹介



# 1. 自己紹介









像大社の祭りといえば、僕は秋の秋季大祭が好きです。祭事は3日間行われますが、中でも宗像三女神が一堂に集う「みあれ祭」（海上神幸）が見ものです。

毎年10月1日、神ノ島・沖津宮の田心姫神、大島・中津宮の湍津姫神、田島・辺津宮の市杵島姫神の神輿を載せた船が、大島から宗像の地を目指すのですが、神輿を載せた船だけではないのです。この日は周辺の浦々の漁船数百隻が結集し大船団を編み、御座船（神輿が載る船）、先導船を筆頭に、各々大漁旗はためかせながら、海上を疾駆するのです。

僕は、幾度か祭りの撮影で大島へ渡ったことがあります。海上神幸の朝、中津宮へ行くと、神々を載せた神輿が中津宮から下っているとどころでした。神輿は海沿いの小さな通りを抜け、港へと向かっていきました。子供たちの鼓笛隊を先導に、神輿が運ばれていくのですが、道の両側で見守っていたお年寄りも、神輿を見るや、目を閉じ、静かに頭を下げ、両の手を合わせていた姿が心に残っています。

撮影では先導船に乗せていただきました。神輿が祝詞を奏じ、船先で舳を左右に運を清めていきます。後方からは無数の船団。祝詞の背後から前方の舳を撮影したとき、海は輝き、舳越しの空がただただ晴れやかでした。この時、なぜだかわからないけれど、自分まで祝福されているような、そんな気持ちになったことを覚えています。

祭りの仕事とは置かずもがな、僕が胸を熱くしたのは、この佳き日を心から祝う地域の人々と、その想いです。日本人はいいなあ、ニッポンはいいなあ、おじから思いました。



宗像三女神の信仰を守ってきた地元漁師

「神宿る島」 沖ノ島

「神守る島」 大島

宗像七浦（鐘崎、神湊、大島、地島、勝浦、  
津屋崎、波津）の漁師

漁業の低迷

漁業振興が信仰を守っていくことに！

Nippon / MURA

Nippon  
ノ  
MURA

時満ちて  
道ひらく

宗像への誘い？  
その意味では、佐三さんは決してひげをもらない。  
城山の山芋も、「自分のもんだ！」って  
言うくらいですからね(巻)

特集  
**宗像**

創刊号



神宝館 沖ノ島から出上の八万点の国宝を収蔵

○開館時間/9:00~16:30(最終入館4時) ○休館/年中無休。※神宝入館に際し、休館の場合があります。 ○場所/辺洋宮本殿の左奥。

○施設維持費/大人:500円、大学・高校生:300円、小・中学生:200円。※幼児別途料、15名以上は1名につき100円引き。

宗像大社

世界遺産運動と同時に、  
海の環境保全運動を！

## 『海の鎮守の森構想』

宗像国際環境国際会議の立ち上げ

地元漁師、市役所、観光協会、環境団体、  
大手企業、大学関係、水産高校



こればかりは、

好きやなかいとダメですね。

続けるっちゃうことは。

私は海がものすごく好きやったけん、

小さいときから。

ここで生まれ育ってね、

もう夏は家におらんとてすよ、

パンツ一丁で(笑)

## mura の 風景

日本海側の海女発祥地とされる福岡県宗像市鐘崎。当地の現役海女は2人。  
その一人、北川千里さん(75歳)の漁に密着。 写真・文=乾祐輔

# 海の 鎮守の森構想と 宗像の 森里川海

九州大学工学研究院  
環境社会部門 准教授 清野 聡子さん

流れ藻はモジャコというブリの稚魚などが集う場となる。それを狙って流れ藻に寄ってくる魚ふくめ、流れ藻生態系は小宇治となり、対馬環流に乗って北上していく。

宗像を離れる山々からの土砂を運び、平野や砂浜を地質学的時間をかけて作ってきた釣川。宗像市民に飲み水を供給し、農地を覆し、工場を支えてきてくれた川。破局的な大暴れをして災害を起こすこともほとんどないため、身近にありながら忘れられた川。

ハードユースされながら静かに水をたたえている。今や近ぶ人の影も少なく、渡ってきたカモたちが水面に群像を描いている。

この川は住みやすい宗像の人口増や産業発展のために、考え得る限りの取水がなされている。「川の流れ」が見えるほど速くないのは、河川流量が減って、堰で仕切られた細長い池となったからなのだ。ここに流れらしい流れが見えるのは、大雨の時ぐらいいである。

ところが、釣川には40年前に環境をめぐるドラマがあった。高度経済成長期に排水が流れ込んで水質悪化した時、宗像の市民たちが立ち上がった。あらゆる努力をして水を飲める水質レベルまで改善したのだ。

森里川海のつながりを考える機会に、是れとも、釣川の静かなる重みに思いを馳せたい。

## 釣川がつなげる 宗像の森里海の暮らし

玄界灘からの冬の強い季節風。対馬環流の海と陸の森からの恵みの出会い。釣川や背後の森からの地下水。海の中の春は陸よりも早い。

陸がまだ底冷えを感じている時期に、少しずつ春へと向かう陽光が海中に射込み、藻類が伸び始める。

玄界灘からの冬の波風は、海を揺さぶせ、海岸にも海面にも白波を立てている。名物の季節風は、十分に酸素を含んだ水を海中に行き渡らせているのだ。

砂浜に打ち上がったホンダワラ類の海藻は、磯や海道の岩に根付いて生育していたものだ。成長するほど、海の流れの力を受けやすくなり、いつか剥離して漂っていく。海藻の浮き袋は、流れ藻となって、海岸で海藻の体に蓄積された栄養分を、外洋へと運ぶ力となる。

## 雄崎海女 北川千里さん

「若い時に潜りよった時の海と、今の海は全然違うよ。水温がどんどん暖かくなって、濁ってる感じやね。」

昔は、潜りよったら魚が寄ってきて一緒に泳いだりって、最近じゃ全然見らん。ちよっと寂しいね。」

「魚がおらんくなって、たて網もするところもなくなったね。」

わかめも形が変わって、加工の時に溶けるんよ。

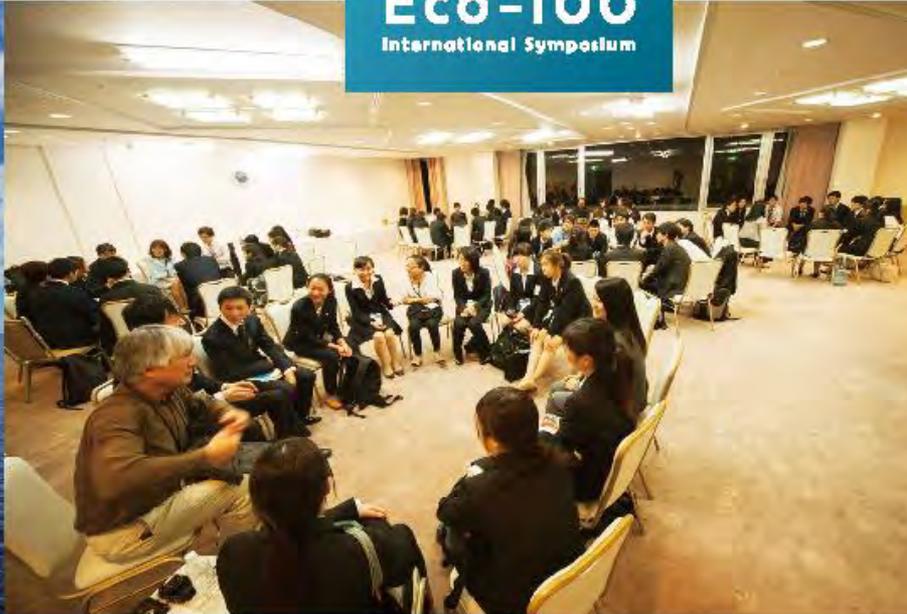
本当はもう少し太ったわかめが育てて欲しいんだけど、わざと獲らんようにしてる。

でもまだ鐘崎はいい方やね。となりの海ではウニも獲れていいよ。」

「もう76歳になりました。最近ちよっと病気になるって潜れんけど、春にはまた潜りたいね。潜った方が体の調子がいい。」

「何人か海女さんになりたい女性が来たけど、焼かんのよね…。」

特に後継者が欲しいというわけではないけど、海が好きで、海を大切にしてくれるような海女さんやったら大歓迎やね。そんなもの好きな人がおればいいんやけど（笑）」





第37回全国豊かな海づくり大会福岡大会 協賛行事

# 宗像国際環境100人会議

MUNAKATA Eco - 100 International Symposium  
2017

「大いなる海 生命の循環」  
海の護守の森 構想



大塚名産  
へら  
そうめん

海の国の  
あまのり  
からしお

ちばし  
こはんの  
おにぎり

あかもく  
天ぷら

大塚の海の  
ヒーロー

# 宗像国際環境会議(公式)HP

<https://www.munakata-eco.jp/>

# 宗像国際環境会議とは

宗像国際環境会議は、玄界灘の海水温度の上昇により沿岸部に広がる磯焼け、漂着ゴミ（マイクロプラスチック）の問題を中心に「海の鎮守の森」構想を掲げ、海の再生事業に取り組みながら、近年の急激な海の変化への提言や情報を国内外に発信するため、平成26年（2014年）に設立されました。

## 主な事業

- (1) 宗像国際環境会議（年1回）
- (2) 海の再生／竹漁礁作り、海岸清掃
- (3) 地元中高生向けの育成プログラム
- (4) 豊饒祭／稚魚放流行事
- (5) 啓発活動

## 宗像国際環境会議実行委員会

宗像漁業協同組合 筑前七浦の会 宗像環境団体連絡協議会 改革プロジェクト キリンビール シャボン玉石けん TOTO トヨタ自動車九州 トヨタプロダクションエンジニアリング 西日本電信電話 日本航空 日本製鉄 日鉄エンジニアリング 三菱商事 九州電力 九州経済フォーラム 地域企業連合会九州連携機構 国際ロータリー第2700地区 九州大学大学院工学研究院 福岡県立水産高等学校 九州のムラ JICA九州 九州国際学生支援協会 JASCA全国学生連携機構 社叢学会 宗像観光協会 宗像大社 宗像市

# ビーチクリーン



# 竹漁礁づくり



山を守り、海を守る

# 竹魚礁を活用した 「豊かな海づくり ~Project-T」

余すことなく、無駄を無くし、  
すべてを循環させる

福岡県立水産高等学校  
アクアライフ科

福岡県福津市津屋崎町(旧宗像郡津屋崎町)にあり、漁港に囲まれた学校、福岡県立水産高等学校。そこにアクアライフ科という学科がある。今から7年前、日頃からお世話になっている漁師、漁協の方々からお世話になってお返しできないかということからこの活動が始まった。

海のためにできること。海が汚れているなら掃除をすればいいのか…。漁獲量の減少が問題ならば、稚魚を放流すればいいのか…。悩む生徒たちに、アクアライフ科主幹教諭・大山欣丈さんはこう伝えたという。

「海だけ見ていると海はよくならない。山と海の関係を知ることが重要だと生徒たちに教えました。そこから山の竹に注目

しました。とにかくやってみよう。やってみないと何も始まりません。Think Globally, Act Locally」

竹林を綺麗にし、山からの流れ出しを改善すれば、海にいい影響が出るのではないかと、アクアライフ科の生徒たちは「竹」に焦点を絞った。竹を伐採するだけではなく、その竹をどう活用するか。使い方、加工方法によっては、うまく海と山の循環の中に竹を活用できるかもしれない。こうして「豊かな海づくりプロジェクトT」は発足した。海の環境が良くなり、海水温の上昇している現状、海と山は繋がっている。森山を豊かにすれば海も豊かになる。アクアライフ科の生徒たちの挑戦が始まる。

まず最初に考えたのが、養殖池の浄化の材料として竹炭をつくること。炭焼きも生徒たちと一緒に行った。竹炭を作るには時間も労力もかかる。

そして、山からの流れ出しから生まれる栄養分として、竹炭と腐葉土、鉄くずを固めたおにぎりのようなものを作り、磯焼けの海に投入していった。そうすることで、山からの流れ出しである栄養分の補いを考えた。

次に考えたのが、塩づくり。水産高校のある津屋崎には昔、九州一の塩田があったという。津屋崎は塩で栄えた町。その歴史を復活させたいという気持ちから、竹を使った塩づくりが始まる。薪割るための燃料は竹。燃やして出た灰を、



参加者で作った10基の竹魚礁を一つ一つ設置する水産高校の生徒たち



1



2



3

1.生徒たちと一緒に汗をかき、アクアライフ科の大山欣丈教諭 2.竹魚礁を設置した高尾は、一面がアマモが広がる草原のよう 3.夏に開催された宝塚国際環境100人会議の経典でのフィールドワーク参加者

わかめに活用し、灰わかめを作った。他にも竹炭パウダーを使った石鹸や、竹の移動用エコラントなども手がけた。

そして竹を使った魚礁づくり。最初は竹を束ねて枕めていた。しかしそれだけでは海の中で倒れてしまったり、枝葉が腐り枯れていった。そこで考えたのが竹をドーム型にすること。この場合、潮の流れや波の影響を受けづらくなった。そこに魚の群れや産卵が見られたという。「そこに海藻がいたり、もっと魚が増えればいいですね。海の森になればいいなと生徒たちと考えています。無駄を出さず、すべてがうまく噛み合うといいですね。」

厄介だった竹を、人の手で、有効活用し、

自然に還していく。「余すことなく、無駄を無くし、すべてを循環させる」という水産高校の生徒たちの新しい発想である。

この取り組みも、ようやく地元の漁師さんたちにも認識されつつある。「最初は、海にもをいれるわけですから、あまり理解が得られませんでした。しかし、生徒たちと一生懸命活動している姿を見てもらって、徐々に協力していただけるようになりました。簡単な話ではないですが、もっと漁師さんたちと協力してこの活動を行ってみたいです。」

この活動が始まって7年が経つ。始まりは、この活動が始まる前の三年生の生徒たちだったという。

「当時の三年生がこの科を盛り上げてく

れました。その生徒たちのおかげでこのように活気ある活動が7年も続いたんだと思います。」

水産高校の生徒たちの活動はまだまだ続く。津屋崎の海では、5年ぶりにウミガメの産卵も確認され、着実に海の環境はよくなってきている。

「この活動は、繋いでいかねばなりません。しかし水産高校の生徒たちでは、授業などもありまして、限られた範囲でしかできません。とても小さな活動だと思えます。しかしこのような活動が日本全国また世界にひろがり各地の海で行えば地球の海は綺麗になる。そんな夢を生徒たちと思っています。」







心おどりに **水** を感めさめる **水**、ムラたびのススメ

# 九州のムラ

The Company  
of Kyoze  
Vol. 10 2010  
880 YEN

Vol. **10**  
★ 2010年

**PRESENT**  
船番所食事券  
〔福岡西郷〕  
よ果どれドレッシング  
〔福岡豊前〕  
ラビュタファーム食事券  
〔福岡行橋〕  
山江温泉ほたる温泉券  
〔熊本山江〕

# へ 行こう

保存版

親子で  
仲良く  
ムラ三昧

屋久島

## ウミガメ観察!

世界遺産の島で出会う生命の神秘

有明海

## 潟あそび!

日本一の干潟でどろんこ遊び

九十九島

## 無人島上陸!

子供達と楽しむひと夏の冒険

体験モニター大募集!

この夏、九州まるごと体感!

# 自然児のススメ

- 01000001 夏風おれんじ祭り 熊本県
- 01000002 歌手・南こうせつ
- 01000003 「九州のムラたび」ツアー

良い子は川で遊びません

この夏、九州まるごと体感！

# 自然児のススメ

そんな標識が立ち始めたのは、昭和40年代からの

日本の渾々満々まで、公共工事が入り、河川は無機質な

コンクリートの三面張りの人工物と化していった。

ダム、道路、テトラポットなど、ムラに次々にできていく

人工物は小さな子どもには危険なものとして、

大人たちは看板を立てていったのであろう。

我がムラを流れる川、目の前の砂浜、海、

ムラを守ってくれる氏神様がおわす山、

それに日々の糧を恵んでくれる田んぼや畑、

ムラの子どもたちにとっては、すべてが遊び場であり、

生きる術を学ぶ場でもあった。

ムラの大人たちは、子供たちにとって本当に危ないところ、

むやみやたらに立ち入ることを憚れる神聖な場所には、

あそここの境には河童が棲んでなあ。

あそこは鬼のお手玉石というて鬼が遊ぶところやから近づいてはいかん

と語り聞かせ、自然との付き合い方を教えてくれた。

この夏、野山を駆け通り、海川に戯れ、生き物に触れ、泥だらけ  
汗まみれとなって、一日中思いっきり遊んでみよう。

『九州のムラへ行く』 編集長 養父信夫

# 良い子は川で遊びません。

日本列島改造論がふきあれる、高度経済成長期、日本の河川は  
コンクリートの三面張りに固められ、農薬散布の際は、  
外で遊ぶ子供たちは家に呼び戻された時代。  
川にはこの標語が。

今こそ、海ガキ、川ガキ、山ガキを呼び戻す。







超三  
博物館  
mini MUSEUM





ナウティルス



工器層の  
アケテ  
頁岩 (秋田)



花山  
(青木)  
工器層



57.9.25  
57.9.25



カマキリ  
板石 (秋田)  
工器層

化石と歯と石



